

丹生ダム工事における濁水対策

1. 丹生ダムでは、工事における濁水発生を極力抑制するよう努めています。

(1) 丹生ダムで現在工事中の工事箇所は図 - 1 のとおりです。また、丹生ダムで用いている濁水発生抑制対策工は表 - 1 のとおりです。

(2) 平成14年の台風6号(7月10日)、台風7号(7月16日)による出水時に河川の濁度調査を実施した結果、濁水発生抑制対策の効果が確認されました。

当日の降雨および河川水位は図 - 2 ~ 3、調査位置は図 - 4 ~ 6、調査結果は図 - 7 ~ 10 に示します。

2. 「第13回委員会(H14.7.30)参考資料1 - 1」の別紙3「南浜・虎姫両漁協よりの報告」の「公団丹生ダム工事」と題された写真集のうち、誤解されている内容がありますのでお知らせします。

(1) 資料21,22ページに「姉川・高時川合流点」、「高時川・杉野川合流点」の写真があります。この表題では、高時川の濁水があたかも丹生ダム工事から発生しているかのように誤解されますが、丹生ダム工事からはこのような濁水は発生していません。

平成14年の台風6号(7月10日)、台風7号(7月16日)による高時川出水時の河川濁水状況を図 - 11 ~ 12 に示します。

(2) 資料16ページで「妙理川」とされている2枚の濁水河川の写真(写真 - 1 ~ 2)は、公団工事とは関係のない「白谷川」のものです。

平成14年の台風7号(7月16日)による白谷川の河川濁水状況を写真 - 3 に示します。

白谷川は2基の砂防ダムが設けられている砂防指定河川です。(写真 - 4)

その他にも、公団工事でないものが3枚含まれています。

(3) 資料18ページの「すぐ右下が高時川」とされている写真(写真 - 5)、および20ページの「道路すぐ下が丹生川」およびとされている写真(写真 - 8)について、補足説明します。

: 写真の工事箇所の直下では、河岸が植生で保護されています。(写真 - 6 ~ 7)

: 出水時に水に浸かる工事箇所は、土のうにより囲い濁水の発生を抑制しています。

(写真 - 9)

丹生ダムでは、今後も引き続き、工事における濁水対策に努めますが、不備な点があればご指摘いただき、改善に努めてまいります。

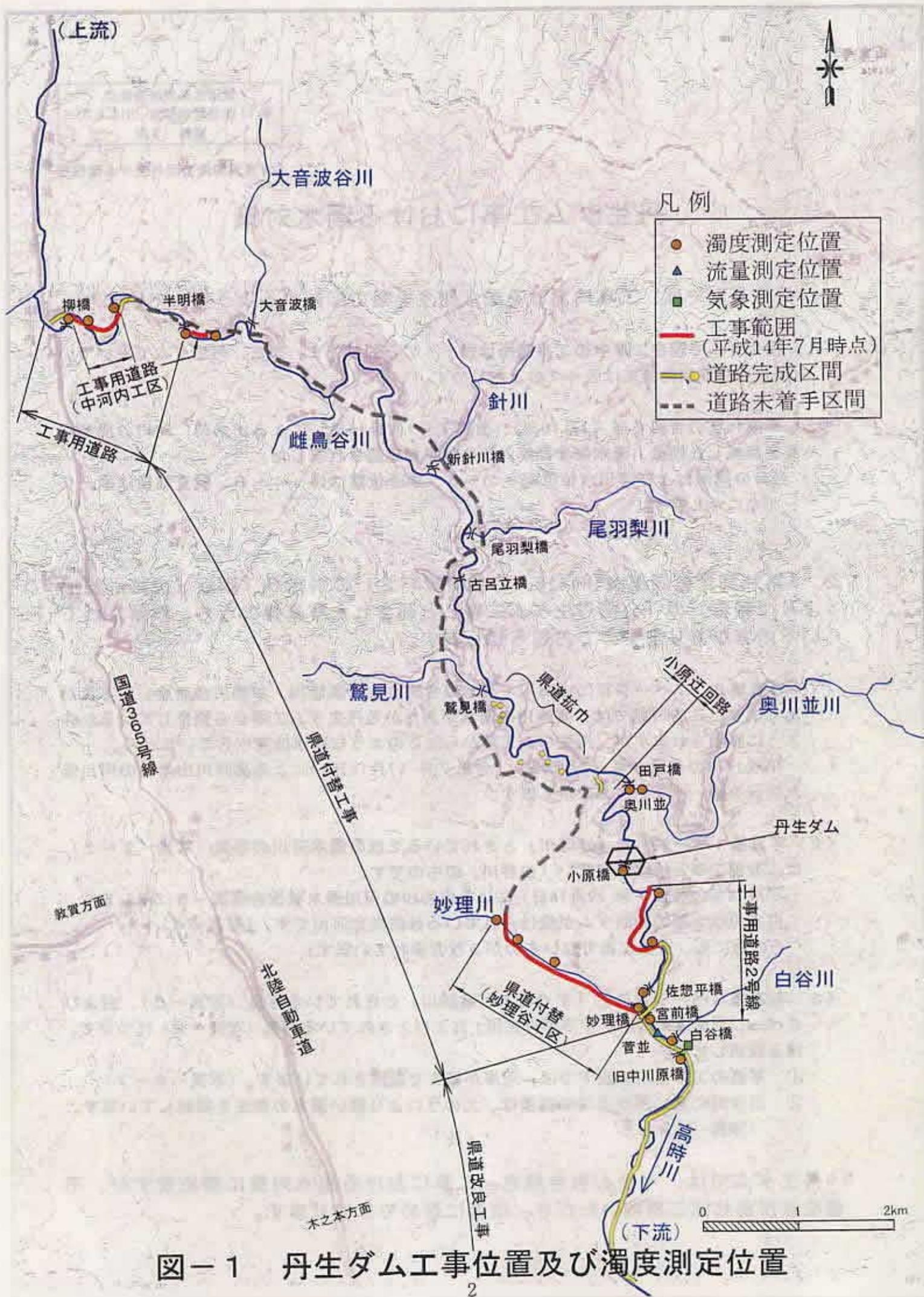


図-1 丹生ダム工事位置及び濁度測定位置

表-1 濁水発生抑制対策工について

対策工	対策内容	状況写真 (図-4, 5, 6 中の写真参照)
①締切工	大型どこのう(濁水フェンス併用)によって、工事範囲を囲むことにより、濁水の発生を防止するものです。	写真②, ⑧
②沈泥池	河床堆積物等に池を作り、濁水を地山浸透させるものです。 (濁水量が少なく、地山浸透が可能な場合、採用。)	写真③, ⑤, ⑦, ⑨, ⑩, ⑫, ⑪
③機械式濁水 処理設備	濁水の懸濁物質を凝集・沈降させた後、河川に放流するものです。 (濁水量が多く、地山浸透が不可能な場合、採用。)	写真⑧, ⑬
④側溝 (素掘側溝含む)	雨水を集め、工事箇所へ流れ込まないようにするものです。 現場状況によっては、素掘側溝で対応することもあります。	写真④, ⑦, ⑨, ⑩, ⑪
⑤法面保護工	裸地となった掘削面を保護し、懸濁物質の流出を抑制するものです。	写真⑦, ⑨
⑥落石防護柵	大型どこのうによって、掘削した土石が河川内にこぼれ落ちないようにするものです。	写真①, ⑥, ⑪
⑦土堤	濁水が河川に流れ込まないように、建設発生土受入地の外周に設置するものです。	写真④

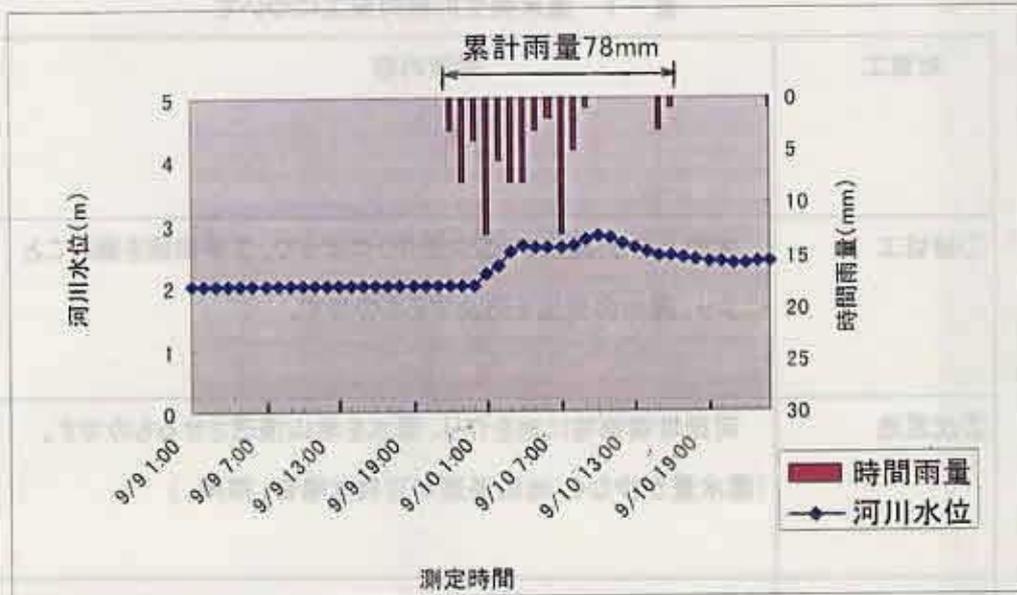


図-2 菅並地点の降雨および河川水位状況 (H14.7/10)

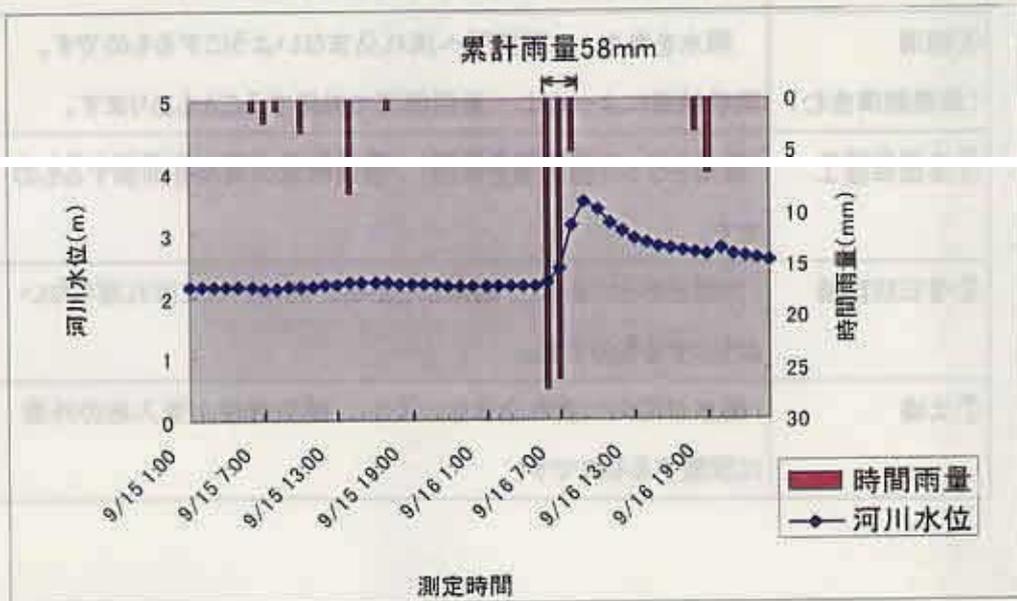


図-3 菅並地点の降雨および河川水位状況 (H14.7/16)